

「円高に関する緊急アンケート」結果

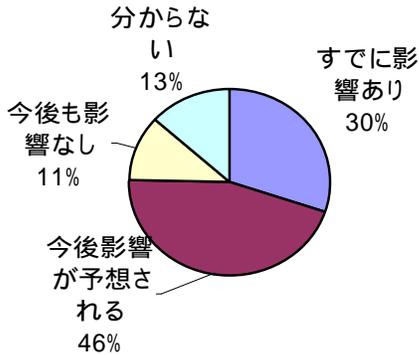
岡崎商工会議所

「すでに影響あり」、「影響を懸念」は約8割、内7割が減益を予想

【調査期間】平成23年8月30日(火)～9月13日(火)
 【対象企業】本所 機械金属・工業部会員 501社 (FAX到達件数)
 【調査方法】FAXによるアンケート方式 【回収状況】有効回答数 97社 (回収率19.3%)
 【調査内容】2010年後半から1ドル=80円台前半で推移していた為替レートは、一時75円台に突入するなど、過去最高の円高水準が続いている。そこで、現状の当地域の円高に関する影響を把握するため調査を行った。

(1) 円高による今後の影響について

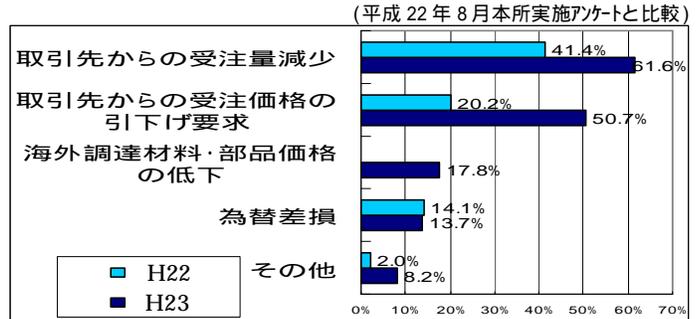
「すでに影響あり」は30%であり、「今後影響が予想される」は46%で、合わせて76%の事業所で影響を受けると予想。



< 「影響あり」、「今後影響を予想」と答えた方のみ回答 >

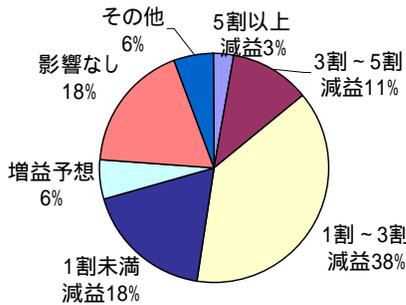
1 - 具体的に予想される影響

半数以上が「受注量の減少」、「受注価格引下げ要求」の影響を予想し、前回に比べても大幅に増えている。



1 - 今期決算への予想

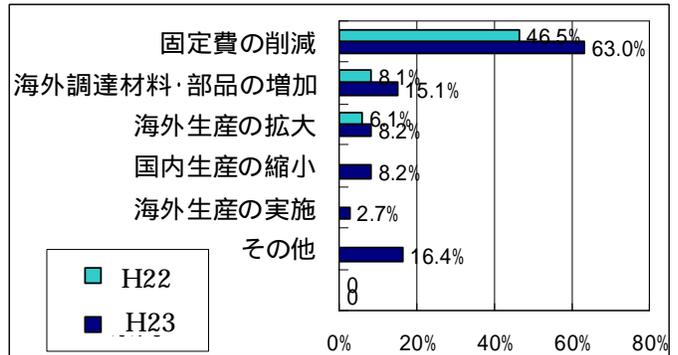
76%の事業所の内、現在の円高水準が3ヶ月以上続いた場合、減益を予想する企業は7割であった。



1 - 今後の対策

対策として半数以上が「固定費削減」。海外展開比率が前回に比べて2倍以上に増加し、空洞化が懸念。

(平成22年8月本所実施アンケートと比較)



(2) 今後、経営向上に必要とする取り組み

約半数が「技術力向上」、「品質向上・コストダウン・納期短縮」、「国内販路・受注先の開拓」

